

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

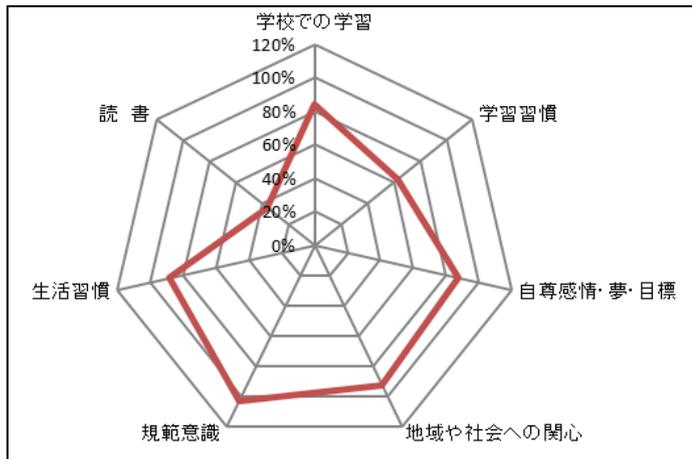
文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つだと考えます。調査結果を踏まえ、今後も学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	平均正答率は全国を下回っており、特に「話すこと・聞くこと」に課題がある。記述式や短答式の問題で無回答率が高く、問題に向き合おうとする姿勢を育てていく必要がある。 「書くこと」では、全国の平均正答率を上回っている。	下回っている
算数	平均正答率は全国を下回っており、その差は国語よりも大きい。 「図形」「変化と関係」領域の正答率が低く、図形の構成要素や道のり・時間・速さの関係をとらえきれしていない。「測定」領域は正答率が高く、時刻を求めることができています。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○ 規範意識が高まってきている。今後も、「いじめについて考えよう集会」の運営等を通して、児童の規範意識の一層の向上を目指す。
○ 地域や社会への関心が高まり、地域や社会をよくするために何をすべきか考えようとする姿勢が見られる。
○ 自分で計画を立てて勉強したり、読書をしたりする児童がとても少ない。自主的に学習する態度を育てていく必要があり、家庭（保護者）とも連携して取組を進めていく。
○ 朝食摂取率が大幅に低下している。食育の取組を進め、心身ともに健康な児童の育成に努めていく。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- 学力向上部会を中心に家庭学習の在り方を見直し、学年に応じた時間・内容の家庭学習が行われるようにする。
- 図書の時間の確保、各教科等の学習における図書の活用、図書祭り等の行事等を通じて、読書習慣の定着を図る。
- 委員会やクラブ活動、学校行事等を通して、自尊感情を高め、自己有用感を感じることができるようになる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 児童の学習・読書習慣の定着に向け、学校だよりやHP等を通して保護者に理解と協力を仰ぎ、連携して取り組んでいく。
- 食育の取組を充実させ、朝食摂取率を高めるとともに、規則正しい生活習慣を身に付けさせていく。
- 地域の施設やまちづくり協議会等と連携し、児童の地域行事への参加や地域ぐるみでの教育活動の推進に努める。